

埼玉大学図書館報

目 次	
館長巻頭言 特色ある図書館にむけて 1	総合情報基盤機構の設置について..... 5
平成 16 年度埼玉大学図書館新収資料 「ファール・コレクション」について 3	埼玉県立図書館との相互協力に関する 協定締結..... 6
ファール・コレクション（主要作品） 4	本学教官著作の寄贈図書..... 7
	平成 16 年 8 月から 17 年 3 月のできごと 8

館長巻頭言

特色ある図書館にむけて

時 田 澄 男

20 世紀の後半、世界の先進諸国は積極的な大学
拡張政策を展開した。日本でも、1960 年から 2000
年までのあいだに、大学生数が約 4 倍に拡大した¹⁾。
このように、大学が大衆へと普及拡大するなかで、
各大学がそれぞれの卓越性を追求することが求め
られている。特色ある大学作りが競われている所以
である。国立大学図書館においても、いろいろな特
色のある取組が行われている²⁾。

国立大学の特徴のひとつは、地方の社会、文化と
結びついていることにあり、それを守り育てるため
に頑張らなければならないと言われている³⁾。埼玉

大学図書館では、平成 16 年度に、埼玉県立図書館
と相互協力に関する協定書を締結した。埼玉県側の
御尽力により、図書館資料の相互貸借のための物流
システムを週に 5 日間運行することが決まってお
り、全国でも珍しい運用形態となっている。これに
より、重複を除いても一挙に 2 倍以上の蔵書が利用
できる体制が実現できたことになる。

埼玉大学図書館の蔵書数が他大学に比べて少な
いことが以前に強調されたことがある。吉中龍之進
図書館長(当時)は、これを抜本的に解決するため、
「図書費の充実」を各教授会ならびに部局長会議に

提案した。その結果、文部省指定配分を除く公費負担の図書費を、平成9年度から約2倍とすることが決定された。その精神は現在も継承されている。平成13年度からは、新たに電子ジャーナル経費を別枠で計上していただけることとなり、平成16年度からは、その全額を全学の共通経費により経年的に措置することが決定された。大学設置基準第8章第38条に、「大学は、教育研究上必要なさまざまな資料を、図書館を中心に系統的に備えるものとする」と記載されている。平成17年度には、この「系統的な整備」についてさらに検討をすすめるため、選書委員会（仮称）を設置して対応をはかる予定である。

図書館とは、資料を収集・整理・保管し、利用に供する施設である。「資料」には、印刷物としての図書のほかに、最近その比重を増しつつある電子化情報が含まれる。図書館は、自身が所有する貴重な資料を電子化して、付加価値のある情報として発信することも、その業務のひとつとなった。本学では、このような情勢を反映して、平成16年10月1日付けで総合情報基盤機構が設置された。この機構は、図書館と情報メディア基盤センター（総合情報処理センターを改組）から成り、全学的な視野に立ったIT・学術情報基盤の整備と調整にあたる。電子化情報は便利に使える反面、その保存性などに問題点が多い⁴⁾。この種の問題に適切に対応するためにも、新しい機構は有効にはたらくと考えられる。

付加価値のある情報とは何だろうか。大学は真理を探究して知を創造するところであるから、その成果を世界に発信することが義務づけられている。しかし、学会誌や商業的学術誌の価格は急騰し、印刷体や電子ジャーナルとしての学術情報の整備は困難さを増している。対処法のひとつとして、平成16年度よりILLオンラインリクエストが始まり、支払い手続きも簡素化された。一方、ほとんどの学術誌が著者自身または公的所属機関から研究成果

を重複して電子的に発信することを容認している。学術機関リポジトリ（repository）とは、大学や研究機関で生み出された電子的な知的生産物を収集、保存し、無料で情報発信するためのインターネット上の保存書庫である⁴⁾。本学でも、紀要をはじめとする学術誌掲載論文や総合研究機構報告書を電子的に発信する試みが検討され、リポジトリの構築が始められている。

大学が所蔵する貴重書や地域の図書館・博物館の郷土資料を電子化して情報発信することは、生涯学習や学校教育を含めた広範な活用が期待できる。本学では、平成16年度に、アンリ・ファールブルの貴重書⁵⁾を入手できたので、これを中心に地域との連携も視野に入れた情報発信を進める予定である。

埼玉大学図書館では、質の高い情報、文化の香りのする情報、知的興奮を呼び覚ます情報の発信を心がけて、その特色を発揮していきたいと考えている。

（工学部教授）

- 1) 潮木 守一著，“世界の大学危機 新しい大学像を求めて”，（中公新書 1764），中央公論新社（2004）.
- 2) 文部科学省研究振興局情報課 HP (URL): http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/04/04042602/003.htm
- 3) 尾池 和夫，“法人化の波に衝撃 変わる日本の大学（対談）”，朝日新聞，2005年3月16日朝刊（12版），14-15面.
- 4) 時田 澄男，“文化の継承と図書館”，埼玉県大学・短期大学図書館協議会（SALA）会報，第13号，p.2（2005）.
- 5) 奥本 大三郎，“平成16年度埼玉大学図書館新収資料「ファールブル・コレクション」について”，むさしの電子版：埼玉大学図書館報，第3号，p.3（2005）.

平成16年度埼玉大学図書館新収資料

「ファーブル・コレクション」について

奥本 大三郎

『昆虫記』の著者で19世紀フランスの博物学者である、ジャン＝アンリ・ファーブル(1823～1915)の名は日本でもよく知られている。しかしその知られ方には少し問題がある、と言わねばならない。その理由は次のとおりである。

日本で、インテリと称されるような人々は大抵、子供時代に児童版で『昆虫記』を読んでいる。そしてファーブルは、フンコロガシ(スカラベ)や狩蜂の生態を、子供たちのために分かりやすく物語った人として記憶されている。

一方、いわゆるプロの昆虫学者で、ファーブル流の昆虫研究、つまり、動物行動学の立場から、どうか昆虫を生き物として研究している人はきわめて少数なのである。

昆虫学者の多くは応用昆虫学、つまり農業のための害虫駆除の研究者であったり、昆虫を単に材料として使用している生理学者であったりする。中には昆虫を知らぬ昆虫学者などという人さえ見受けられることになる。

もちろん、それはそれで大切なことである。しかし、その型態において実に多様な分化発展をとげ(昆虫の種類数は3千万種という説がある)、行動においても、それこそ奇想天外の能力を発揮する昆虫は、学問研究の宝庫なのであって、直ちに应用には結びつかないとしても、昆虫そのものを研究の対象とすることはきわめて重要である。ファーブルの手法は型態の研究と並んで、昆虫研究の主流のひとつであろう。

さて、そのファーブルに関する、またとない貴重

な資料を、このたび埼玉大学図書館が入手することができた。

その筆頭は、ファーブル著「フランス・アカデミー最高栄誉賞モンティオン賞受賞及び博物学学位取得論文用研究ノート及び草稿コレクション」というもので、中に八種の、ファーブル自身による手書きノート、草稿の類が含まれるが、その中の一冊は、彼のフィールドノートそのものなのである。「幼虫の餌となる甲虫を長期保存させるツチスガリの習性の観察」と題されている。ツチスガリは狩蜂の一種で、ゾウムシを捕えて幼虫の食料とする。この研究分野でファーブルの先駆者ともいべきレオン・デュフル(1780～1865)は、タマムシを狩るタマムシツチスガリの生態を研究して、巣穴の中に保存され、幼虫の食料とされるタマムシがいつまでも腐らないのは、蜂が「未知の防腐剤」を獲物に注入するからであると結論づけた。

しかし未解決の問題に対して「未知の防腐剤」を提起したのでは問題を先送りにするだけで解決にはならない。ファーブルは野外でさまざまな実験を繰り返し、ゾウムシを狩るツチスガリで根本的な発見をした。そして動物行動学を大きく発展させることになるのだが、そのスリリングな経緯がこのノートの中につぶさに記されている。しかも清書され、文章を整えられた後の『昆虫記』の本文よりもその事情が生々しく記録されていて、一人の秀れた研究者の発見の喜びと感動が伝わってくるのである。

よくもまあ、これほど貴重な資料が入手できたものよ、と感嘆する。これがもしフランスの市場に出

たのであったら、フランス政府はおそらく国外持ち出しの許可を与えなかったのではないかというほどの文化財である。

その他に今度入手したものに、『昆虫記』の初版本や決定版を含むファーブルおよびその周辺の洋書 35 点（洋図書 32 点、洋雑誌 3 点）、昭和初期に出版された 2 種類の邦訳版『昆虫記』を含む和書 17 点、フランスで制作された記念メダル 2 点がある。洋書のなかにはファーブルがプロヴァンス語で書いた詩集もあり、これにはファーブルの友人で

『プロヴァンスの少女ミレイユ』によってノーベル賞を授与されたフレデリック・ミストラルからファーブルに宛てた自筆の長い書き込みが添えられている。

これなら、立派な「ファーブル展」が出来そうで、埼玉大学図書館にも、他のどこにも負けない堂々としたコレクションが揃ったものと、この大学に永年勤めてきた私などは嬉しく、また誇らしく思っているところである。（教養学部教授）

ファーブル・コレクション（主要作品）

〔手稿〕（1 点）

・ Cahiers autographes de travail, écrits à l'encre avec nombreuses ratures, corrections et autres manuscrits autographes par Jean-Henri Fabre.

（ファーブル著「フランス・アカデミー最高栄誉賞モンティオン賞受賞及び博物学学位 取得論文用研究ノート及び草稿コレクション」）

「ツチスガリ研究ノート」モンティオン賞受賞論文草稿

「ヤスデ研究ノート」パリ大学博物学（動物学篇）学位論文草稿

「チドリソウ研究ノート」パリ大学博物学（植物学篇）学位論文草稿他



〔洋書〕（全 35 点より）

・ DUFOUR, L. Histoire anatomique et physiologique des scorpions.

Paris, Imprimerie Impériale, 1856.

（デュフールの論文。ファーブル宛献辞入り）

・ FABRE, J.-H. Souvenirs entomologiques. études sur l'instinct et les moeurs des insectes.

Paris, Delagrave, 1879.

（「昆虫記」初版）

・ FABRE, J.-H. Nouveaux souvenirs entomologiques. études sur l'instinct et les moeurs des insectes.

Paris, Delagrave, 1882.

（「新昆虫記」初版）

・ FABRE, J.-H. Souvenirs entomologiques. ed. définitive illustrée.

Paris, Delagrave, 1925. 11 vol.

（「昆虫記」決定版全 11 巻）

・ FABRE, J.-H. Oubreto provençalo dou félibre di tavan. traduction française en regard.

Avignon, J. Roumanille, 1909.

（ファーブル著「プロヴァンス語詩集」F. ミストラル書込有）

〔和書〕（全17点より）

- ・ファーブル著『蜘蛛の生活』英義雄訳（洛陽堂、大正8年刊）
- ・ファーブル著『科学の不思議』大杉栄、伊藤野枝訳（アルス、大正12年）
- ・『ファーブル科学知識全集』全13巻（アルス、昭和5～6年）
- ・ファーブル著『昆虫記』岩田豊雄他訳、全10巻（アルス、昭和6年）
- ・ファーブル著『昆虫記』大杉栄他訳、全10巻（叢文閣、昭和10年）

〔その他〕（全2点より）

- ・ J.H.Fabre-naturaliste. Ses amis, ses admirateurs.
Médaille de jubilé de Souvenirs Entomologiques. 1910. faite par F.Sicard.
69x52mm, bronze
(1910年「ファーブルの日」に頒布されたブロンズ製記念メダル)



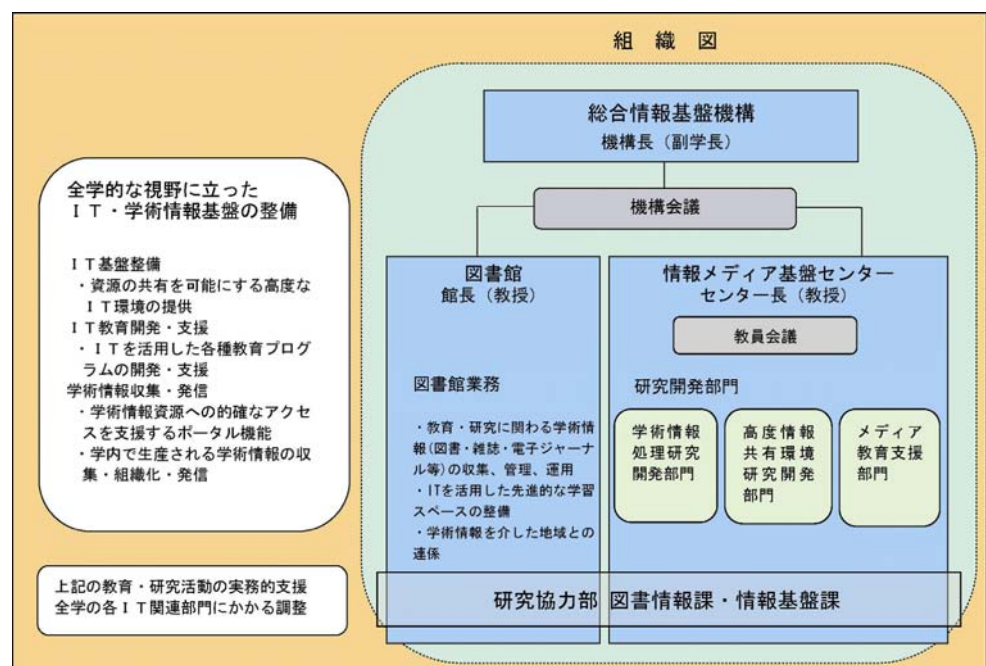
総合情報基盤機構の設置について

本学は、平成16年10月1日に「総合情報基盤機構」を設置しました。

この機構には、図書館と情報メディア基盤センター

（従来からの総合情報処理センターを改組）が置かれ、全学的視野に立った情報基盤の整備・運用、及び学術情報（図書館で扱う資料及び学内で生産された学術情報等）の収集・蓄積・提供を行うことを目的とし、全学情報基盤の企画・立案・整備及び運用、学術情報の収集等

に関する企画立案及び実施、また、情報メディアを活用した各種教育プログラムの開発・支援などを行っていきます。



埼玉県立図書館との相互協力に関する協定 締結

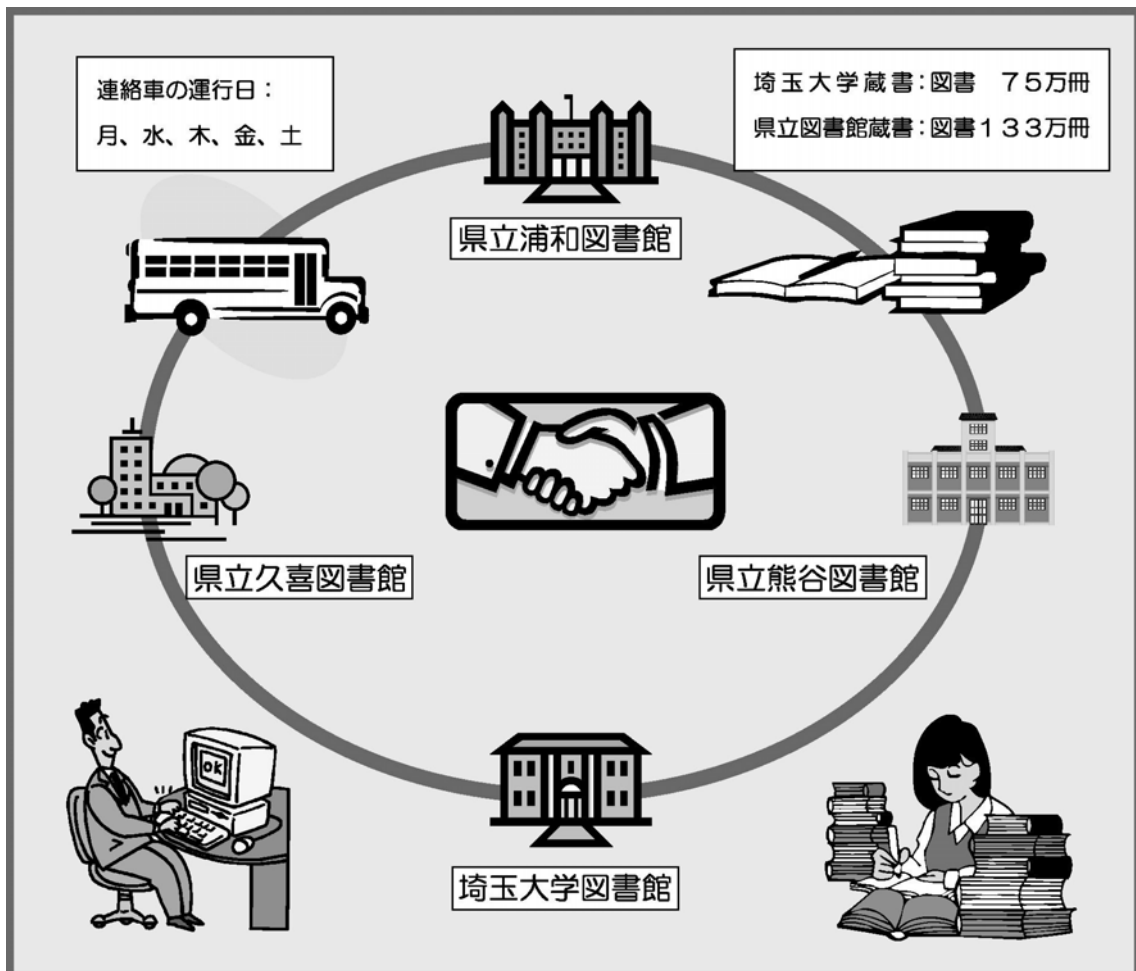
埼玉大学図書館は、平成17年3月28日（月）に埼玉県立図書館（浦和図書館、熊谷図書館、久喜図書館）と相互協力協定を締結しました。これは、館種を超えた県内図書館ネットワークの拡充を図り、県民へのより多様な資料提供を実現することを目的としたものです。県立図書館間を週5日運行している連絡車のコースに埼玉大学図書館が加わり、スムーズな物流体制の下に蔵書の相互貸借などが実施されます。

埼玉大学図書館では、これまでも来館する市民の方には貸出を行っていましたが、今回の相互協力協

定により、遠方から出向かずに最寄りの県立図書館で利用できることとなります。また、埼玉大学の学生は大学の図書館から県立図書館を利用できます。

国立大学図書館と県立図書館との相互協力の例は他県でもありますが、週5日の連絡車の運行という定期的かつ頻度の高い物流を確保した相互協力体制は、全国的に見ても先進的な取り組みです。相互協力業務は、4月1日（金）から始まっています。くわしくは、こちらへ。

<http://www.lib.saitama-u.ac.jp/riyo/howto/kenritu.html>



本学教員等著作の寄贈図書

(平成16年7月～平成17年3月)

田代 脩 (名誉教授)

- ・田代脩先生年譜並著作目録付最終講義 田代脩教授退官記念会, 2004

根上 剛士 (名誉教授)

- ・近世前期のてにをは書研究 風間書房, 2004

杉山 直子 (教養学部)

- ・Speaking with divine authority. UMI Dissertation Services, 2003

山口 仲美 (教養学部)

- ・暮らしのことば擬音・擬態語辞典 講談社, 2003
- ・中国の蟬は何と鳴く? 日経B P社, 2004

山崎 敬一 (教養学部)

- ・実践エスノメソドロジー入門 有斐閣, 2004

宇田 和子 (教育学部)

- ・埼玉の女性 人物新報社, 2004
- ・ブロンテ姉妹を学ぶ人のために 世界思想社, 2004

坂西 友秀 (教育学部)

- ・近代日本における人種・民族ステレオタイプと偏見の形成過程 多賀出版, 2005

田村 均 (教育学部)

- ・ファッションの社会経済史 日本経済評論社, 2004

西村 章次 (教育学部)

- ・自閉症とコミュニケーション ミネルヴァ書房, 2004

高橋 功 (教育学部)

- ・ある日、ぼくらは夢の中で出会う 論創社, 1987
- ・バンク・バン・レッスン 論創社, 1993

- ・八月のシャハラザード 論創社, 1996

- ・極楽トンボの終わらない明日 新版 論創社, 1997
- ・VERSUS: 死闘編～最後の銃弾 論創社, 2004
- ・ハロー・グッドバイ 論創社, 2004

岩見 良太郎 (経済学部)

- ・「場所」と「場」のまちづくりを歩く 麗澤大学出版会, 2004

小笠原 浩一 (経済学部)

- ・介護関連分野における雇用・能力開発指針の策定に関わる研究 研究報告書 平成13年度/平成14年度 2002/2003

中江 博行 (経済学部)

- ・相続税・贈与税の実務全書 税務経理協会, 2004

李 潔 (経済学部)

- ・産業連関構造の日中・日韓比較と購買力評価 大学教育出版, 2005

時田 澄男 (工学部)

- ・化学者たちのネームゲーム I, II 化学同人, 1990-1991
- ・機能性色素の分子設計 丸善, 1989
- ・化学者のための数学 東京化学同人, 1981
- ・有機工業化学: そのエッセンス 裳華房, 1999
- ・化学ラボガイド 朝倉書店, 2001
- ・有機フotokロミズムの化学(季刊化学総説 No. 28) 学会出版センター, 1996
- ・高精度分子設計と新素材開発(季刊化学総説 No. 46) 学会出版センター, 2000

佐藤 邦明 (地圏科学研究センター)

- ・地下水環境・資源マネジメント 埼玉大学出版会, 2005

ご惠贈誠にありがとうございました。今後もご刊行の節はご協力くださいますようお願いいたします。

平成16年8月～17年3月のできごと

委員会

16. 11. 2 総合情報基盤機構会議（平成16年度第1回）、総合情報基盤機構
人事管理委員会
17. 2. 2 総合情報基盤機構会議（平成16年度第2回）
17. 3. 17 総合情報基盤機構人事管理委員会

事業等

16. 10. 1 総合情報基盤機構発足
16. 10. 20 Annual reviews Online 版の利用開始
16. 11. 1 図書館ホームページのリニューアル
16. 11. 2 ILLオンラインリクエストの試行開始
16. 11. 25 卒論・修論準備講習会（文献検索基礎編）実施
16. 12. 2 卒論・修論準備講習会（文献検索応用編）実施
17. 1. 25 平成16年度埼玉大学図書館講演会（「図書館からの情報発信
—機関リポジトリとは」）開催
17. 3. 28 埼玉県立図書館との相互協力に関する協定締結

学外会議等

国立大学図書館協会

16. 11. 7-11. 8 第17回シンポジウム（東地区）（東京学芸大学）

関東地区国立大学図書館協議会

16. 11. 4-11. 5 第38回研修会（群馬大学）
16. 11. 12 第37回事務（部・課）長会議（千葉大学）

埼玉県大学・短期大学図書館協議会

16. 10. 7 平成16年度第2回幹事会（東洋大学附属図書館朝霞分館）
16. 11. 18 第16回研修会（獨協大学）
17. 3. 15 平成15年度第3回幹事会（東洋大学附属図書館朝霞分館）

埼玉県図書館協会

16. 10. 1 平成16年度第1回常任理事会（埼玉会館）
17. 3. 17 平成16年度第2回常任理事会（埼玉会館）

その他

16. 11. 9 -11. 12 第24回西洋社会科学古典資料講習会（一橋大学）
16. 12. 13 -12. 15 国立情報学研究所学術ポータル担当者研修
16. 12. 14 国立情報学研究所事業説明会
17. 1. 26 - 1. 28 国立情報学研究所学術情報リテラシー教育担当者研修
17. 2. 17 国立情報学研究所平成16年度NACIS-CAT/ILL講習会担当者報告会・
平成17年度講習会実施検討会議
17. 2. 24 国立国会図書館関西館レファレンス協同データベース実験事業
参加館フォーラム
17. 3. 10 EBSCOセミナー2005（アルカディア市谷）
17. 3. 11 全国漢籍データベース協議会第5回総会（学術総合センター）

埼玉大学図書館報 「むさしの」電子版 第3号

平成17年4月発行

編集発行 埼玉大学図書館 〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 電話048(858)3666

URL <http://www.lib.saitama-u.ac.jp/>